opusdei.org

神のいつくしみの秘 跡:ゆるしの秘跡に ついて(XI) 償い

フランシスコ・ルナ著 (新田 壮一郎訳) 『神のいつくしみ の秘跡:ゆるしの秘跡につい て』より

2024/10/23

これまでの記事を読む

償いを果たす

包み隠さず増減なく誠実、正直に罪 を言い表すと、司祭が償いを与えま す。この償いの意味を知らずに、た だ司祭はいつも償いを命じるから、 また、幼いころからいつも償いを命 じられてきたからと思って、償いに ついて深く考えない人がいるかも知 れません。償いは果たすけれども、 償いの意味が分かっていない証拠で す。

罪の醜さを完全に理解することは難 しいものです。償いの必要について も同様です。しかし、重い罰があれ ば、罪の重さ、重大さを知ることが できます。大罪を犯せば、地獄の永 遠の罰を受けます。そこでは終わり のない苦しみがあり、さらに悲しい ことには、最高善である神を愛する ことは絶対にできなくなります。小 罪を犯せば、煉獄の罰を受けます。 そこでは、地獄の青め苦に劣らない 苦しみを受けるけれども、いずれ永 遠の幸福を得ることができるという 希望があるので、少しは苦しみも軽 く感じられることでしょう。神の啓 示によれば、このような罰は神の正義と聖性を損なった罪の結果であり、数多くの悪をこの世にもたらした罪の遺産です。天国の喜びを得ようと思えば、避けることのできない苦しみなのです。

秘跡において赦しを受けると、罪と 罪に見合った罰が赦されます。しか し、ゆるしの秘跡を受ける時にわた したちの持っている痛悔は、普通の 場合、完全だとは言えません。もち ろんこの時も、罪は実際に赦されま す。ただ、わたしたちの神への愛は 純粋で美しいものとは言えないの で、過失や罪の罰をすべて赦してい ただくことはできないのです。これ は煉獄が存在するということからも 容易に理解できるでしょう。罪はそ の結果として、汚れと罰とを残しま す。罪が赦されると同時に、永遠の 死からは免れますが、罪の残りと罪 に帰せられる有限の罰のすべてが常 にゆるされるとは限らないのです。

痛悔の心をもってこの世を去った者 も、完全に罪の償いの果たし終えて いないなら、煉獄の清めが必要で す。罪の結果である罰は、現世の苦 しみや惨めさや悲しみによって浄め られる必要があり、特に死後、火と 責め苦によって清められなければな りません。

イエス・キリストに対する愛は、その赦しのことばを信じ、感謝するだけで充分であるとは言えません。愛が本物であれば、イエスと共にその苦しみと悲しみを分ち合うはずでしょう。

以上で、償いの必要なことが少し理解できたのではないでしょうか。 「アヴェ・マリア……」を三度唱えるようにとか、聖体訪問を一度しなさいとか言われて、その償いを果たす時は、良い勧めに従うだけでなく、罪を犯して神を侮辱した時の負債の一部を支払うことになるので

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ itsukushimi-no-hiseki11/(2025/12/11)